友愛

発行所
友愛青年同志会
東京都文京区音羽町2の10
電話番号（94）3801番
編集兼発行人　水谷
定価　1部10円

入会申込は直接本部までハガキで一報下さい
東京都文京区音羽七ノ一〇
友愛青年同志会

全国組織確立に邁進
全国大会準備開始
召集状十三日に発送

前号で報じた第二回全国大会召集については、三月十日本部において、第一回準備委員会を開催、その召集準備等につき打合せがなされた。なお常任幹事会では会議項を決定し十三日第二回全国大会召集状及びその要項を各支部及び地区あて発送することになった。召集要項は次の通り。

第二回友愛青年同志会全国大会要項

一、主　旨　友愛青年同志会は第一回全国大会以来全国に躍進をとげわが国青年運動の上によいよ強固な地歩を固めつつあるが、ここに全国各地の代表の参集をもとめ昭和三十年度運動方針並びに諸議案を討議決定し、全会員の意志を統一しより強固なる全国組織の確立をめざし広範なる運動の展開を強調することを目的とする。

一、主　催　友愛青年同志会

一、期　日　昭和三十年五月三・四日

一、会　場　如水会館　東京都千代田区神田一ツ橋

一、参加者　各支部、地区、学校代表（正代表一名副代表二名）本部役員、オブザーバー（会員の場合制限なし）

一、代表者　1、大会一カ月前迄に正式登録会員であるもの。資　格　2、各支部、地区、学校代表で本部において確認したもの。3、四月十三日迄に代表者名簿を提出したもの。

一、参加費　各支部、地区、学校単位ごとに金二〇〇円を大会当日納付する。

一、議題案　1、本部、地方（支部、地区、学校）提出議案　2、提出期限　本部（三月末日）地方（四月十三日）

一、日　程　別表による。

（協議事項）

1、大会準備委員会事務局は友愛青年同志会本部内に置く。

2、各支部、地区、学校は大会議事規則にもとずき四月十三日までに次の事項を大会準備委員会事務局迄通告すること。

（イ）正副代表者名簿（印封の名簿に記入）

（ロ）大会に提出する議案（具体的内容添付）

（ハ）宿泊所の斡旋を希望する場合同封の別表に記入のこと

（ハ）宿泊所は一ツ橋第一東京都千代田区神田一ツ橋

（ニ）正副代表者の住地より東京迄の旅程（汽車、船舶、バス）を別表に記入のこと。

3、正副代表者の旅費（三等往復実費）及び宿泊費（除食費）は本部で負担する。（オブザーバーはその限りにあらず）

4、オブザーバーとして参加するものがある場合は、別に名簿を添付すること。

5、本部提出議案、大会日程表、会場地図、宿泊所地図等は後日送付する。

準備委員会発足

第二回全国大会準備委員会は去る三月二日第員会設置の打合せ会を行ない、準備委員委嘱の範囲、事務分掌、準備日程の大項を含め第一回準備委員会を同五日本部において開催、正式に準備委員会発足させ合せて同事務局を本部内に置くことを決定した。

準備委員会の構成は、本部役員在京幹事、東京都内各地区代表者及び大学代表者を委員に委嘱した。事務分掌を総務・渉外・会場・宿泊・接待・記録・経理の各部と本部付の八つに分けることにした。準備日程は三月中旬大会予算、全国各地との連絡等の問題に重点を置き四月に入つてより具体的な準備に入り、下旬までに諸準備を完了する。なお大会準備委員会委員には興田組織部長が、同副委員長北川企画部長、同事務局長に徳沢事務局長が内定している。

本部來訪頻り

第二回全国大会をまじかに控え本部と地方との連絡論が高まるに連れ盛んになっているが、本部役員並びにオルグの地方派遣も頻繁となることになり、本部・地方を通じて全国大会にのぞむ体制を整えつつある。これと同時に地方会員の本部来訪もようやく頻繁になって来た。各会とも現地状況の報告かたがた、全国大会への対策派遣問題を中心に、地方活動についての具体的問題について打合せを行なった。

二月二十六日一宮田英雄、近藤俊明（北海道余市地区）三月四日一矢倉義雄（京都地区）

本部で意見具申か
青少年問題協議会に対し
委員会構成問題で

中央青少年問題協議会では去る一月十八、十九の両日首相官邸において全国協議会を開催したがこの協議会において既、その委員は青少年問題協議会設置法第三条第二項第五号の規定によりいわゆる学識者のみか対象としているため、実際に青少年の立場から各種青年運動にたずさわっている青年層からも加えられていない。

こうした同協議会のあり方に対して先きに日青協では緊林会長名で同協議会長根本竜太郎氏宛質問、要請していたが、先きの全国協議会は同会の内部的連絡会であること、法律によって委員が規定されていて新加入の余地がないことを理由に日青協のみならず関係団体に招請しなかった旨根本会長名で日青協に回答している。日青協の這所県組織である県連青代表が同協議会の委員として参加しているのに中央機関の代表が無視されているのは遺憾であるとの理由によるものであるとかの、日青協のこのような内部問題ともみられることによる代表参加懇請は別にしても青少年問題協議会が青少年代表と参加させないで計画を立てたことは問題にかいの餅というべきである。

二月二十日付の"青少年問題協議会設置法"による第三条第二項第五号の規定によりいわゆる学識者のみか対象としているため、実際に青少年の立場から各種青年運動にたずさわっている青年層からも加えられていない。

こうした同協議会のあり方に対して先きに日青協で

無氣力・形式的な活動
地方にみる青年運動の実態

◇静岡縣　鈴木長男君の報告◇

ここに紹介する論文は静岡県浜名郡舞阪村の会員鈴木長男君が本部に提出した同郡における『青少年運動の概況』の全文である。この論文に表われているところは、一般青年団活動は青年層の真の意味での同化に資することが少く、全く無気力な惰性による活動が形式的に行われているにすぎない。とするものであるが、一般的傾向としてはそれも必ずではなく実際全国的な処にみうけられるものであろうと思われるので敢えてその全文を掲載した。（編集局）

◇全般的について現在の『政治』というものには余り関心を寄せず慢然的でもっぱら享楽的な心を寄せるというのが当時の『課題』かのように、みられる傾向が相当強い。

まづ、これら『青少年団体の骨格』ともいうべきその規約による要素を一括してみると、各種形式的な『各人の人格向上』団体的な情操等を育成することを、また青少年男女間の相互の親睦等を目とする『という趣旨に踏襲されているのがみうけられる。

このような趣旨によって、地域ごとに分布している彼らの活動方針は、年中行事として他町村とのスポーツ試合、文化娯楽等を初め通例行事を定期的に開催するだけであって、政治問題思想問題等に対する討論などは皆無に等しい。

そして、これらの活動の中で意義を求めているすぎない。そしてこれらが彼らの主たる活動目標となっているのが一般的動向なのである。

また、三の青年団の予算面をみると、体育部関係に予算が独占的に配取られ、ついで文化部・事業部となっていて、これが一つの特殊性を呈しているにすぎかわらず、これがでく自然に行われている。

注―これは決して満場一致の討議を経て、その予算編成が行われたのではなく、むしろこのようなあり方が当然であるという無自覚的な予算編成を行っていることが充分うかがわれる。

こうした動向には、ある意味で結構であるだろうが、果して実際面をみると必ずしも予算通りの成果なりまた団員の団体的な情操等を豊かに育成するという趣旨にも不統一である。こうしたことが結果としては彼ら自身の自己発展を阻害しているのみならず、運動を鈍らせている原因でもあり、またこれが実際には青年団活動が一般から浮き上ったものとなっている。

◇こうしたことが潜在的原因になっているのかどうかは分らないが最近Hクラブとその親元青年団とのいわば内輪的対立という事実が、地域によっては表面化しつつあることは見逃せない事実であろう。

こうした事実を招来する所以のものは、結局『青年団自分達のものである』という青年団自体の基調に対する団員各自の考え方が不明確で、他律的惰性に終始しているのに対して、多くとも町村当局の財政的な補助に甘まれ、実用化されている『自律的』活動を行っている4Hクラブとの間の感情なるものであることはいうまでもない。また、これは青年団と4Hクラブとの基本方針による活動分野が事実上は背反していることにもよるようである。

注―こうした見解は論4Hクラブが農家生活に直接つながりをもち財政的裏付けを確立さされている専門的団体であることも十分考慮してのことである。また最後改めて発足した『青年学級』に対しても、当地方においては、その母胎となるべき青年団自身が、なお『学級』と混同されている現状であり、そのものを敢然混乱と解釈しなくとも自ら苦等混乱と白眼視するような極端な青年団員もあり、これらの事実は青年の動向を知る上で一般的にも等閑に附せられない事実であろう。

こうしたあり方に対してある青年団の聚幹部は『団員各自の不熱心と、不統一による一種の形式的無意味が大きく彼ら自身全く必要に不満感を面へ思いやっていることを反省してみるべきだ。また4Hクラブ乃至青年学級のモノよりも喜青団という公的なモノに今一度自己反省と自覚に青年団としての公的性格を『団』というものに対して自覚することが何よりも先決問題であろう』と語っている裏に青年団員の団に対する再認識を痛感されるのである。

註―このような青年団員のあり方に対しては、戦前戦後を通じ

『政治』には無関心

こうした動向は、地方においては、特にどのような色彩が濃厚であり、ひいては市町村当局等の御用団体的な性格等を呈している地域もみられる。

なお一般には公的な機関において討議されている各団等の一般的対象は、比較的高い労働者対象としたモノが多いようである。しかし事実は、このようなあり方に対して相当の矛盾が感じられ反省が求められているようだ。

しかし実際には社会的な面をみると、地域地域によってその動きが異り、団はじめ各員の半分は、なんの活動機務もなく無然としているのが実情のようである。―（勿論、地域によってはより活動的な所もあるが）―。

4Hクラブと青年団との対立

学級に対しても、当地方においてはその母胎事情無という地域もみられることもまた青年団活動の一端が示唆されるに足りる事実であろう。また地域では『学級』そのものを敢然混乱と解釈しなくとも自ら苦等混乱と白眼視するような極端な青年団員もあり、これらの事実は青年の動向を知る上で一般的にも等閑に附せられない事実であろう。

こうしたあり方に対してある青年団の聚幹部は『団員各自の不熱心と、不統一による一種の形式的無意味が大きく彼ら自身全く必要に不満感を面へ思いやっていることを反省してみるべきだ。また4Hクラブ乃至青年学級のモノよりも喜青団という公的なモノに今一度自己反省と自覚に青年団としての公的性格を『団』というものに対して自覚することが何よりも先決問題であろう』と語っている裏に青年団員の団に対する再認識を痛感されるのである。

註―このような青年団員のあり方に対しては、戦前戦後を通じ

間隙にツケ入る左右両翼

宗教問題でも、青年団という公約束なる団体でもその活動するという新たな動きも見受けられないようだ。これらは、個々による各人の『自由』によって各宗派を信仰する、といった極く個人的なもので、別に特色ある動向として、これに値するまでのモノではないであろう。

しかし『病を治すための宗教とか、信仰をしていれば病気はない、信仰者は神の子だ』とかいう『特殊な信仰』を青年団始め一般人に多く見られている不合理さ感じは今後の課題としても特筆すべき地方の現象でもあろう。

（これらは、地方ではかなりの現象であるようだが……？）

◇こうした反動でもあるまいが、全国的にみられる一般青少年男女の『思想的悪化』が、当地方においても甚だしく激化しつつあるようである。

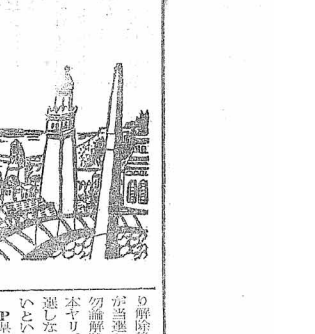
注―左翼的とは、闘争色の濃厚な『総評』を主体としたものの。

これらの右翼的な含む左翼的な動きは、本来は、当地方の青年団の間に表面化されては居ないようだが、現在の国民感情を巧に利用して、漸然と一般大衆に食いこもうと策しているようは、誰目すべき彼らの動向でもあろう

学藝

正直な候補者は当選できない？

……ある記者の手記



解除後総選挙の度に立候補したが当選しなかった人である。

勿論解除後の選挙でも公明選挙一本ヤリ。そして編集長はQ氏の当選しなかった原因をツキとよこしていたいうのである。

P県第一区には前回の当選者が二人あり、自由党から立候補しているが、その他左右両社から各一の他に十指の小会派からも立候補者があって定員五名に対して全部で十一名の候補者がある。しかも戦前はP県保三区制であったものが戦後二区制に改められたため、人によって不利な候補者がある。記者のみきのQ氏もその一人。A郡B郡C郡では有力だがその他の郡市においては余り知られがない。しかも自由党の二人は前大臣元議長といった与党の現代の選挙への奉仕がものをいって、票固めにかなり手固いところをみせている。

Q氏の場合は公明選挙の試験になるのだから、Q氏の当選が確実なのであるが、しかし選挙というものは勝負なのであるからどうしたQ氏の場合は公明選挙に出ることが出来ないわけだ。特にこの土地は高興人情を重んずる土地柄だけに、選挙民に目に見える奉仕がなくて、義理を押売りしないと当選できないし、運動がやりにくいし、とこれは社氏の選挙参謀が語っている。『郷に入っては郷に従え』ということもしい。

人気は最高だったが当選は下位

Q候補は規定の個人演説会六十回を投票前日まで一回もおろそかにせず開催した。中盤戦以後は年後の街頭演説を行った。P市公会堂における立会演説会に超満員の聴衆から圧倒的な拍手と声援を得た。郡部に行頭演説を行った。郡部に行頭演説に出かけ大賞伝ガーが田ンボの中にひつくり返った時、あたりの田ンボに働いていた百姓たちはQ候補と知るや先づ

実弾射撃に崩れる

人気だけでは当選できないというのが選挙の原則だそうだが、どうの選挙の原則はそうだが、これ

おばさんの人生教訓

石垣綾子著『女は自由である』

おばさんの人生教訓といっても、このおばさん、そのへんにザラにいるイキガラ老の年齢相応はおばさんではない。女盛の表現も、社会にいるイキガラ老の年齢相応はおばさんではない。女盛の表現も、社会に対する意識も若さのあまり新しいものを沢山にもっているおばさんである。それだけにこの本は大へん読みやすい。読んでいるうちにいつのまにか終りまで読んでしまうという魅力をもっている。

最初の寄書だけでは女は滅びるまい。銀座の人の流れの中で、若い男女が眼と眼をかみあわせる。それが一転して二コ・ヨークの裏街における男女の出合いに移るなど、アメリカ映画のようなアメリカを読んでいるようである。その手法が左へ右へ、前へ後へ、時間の流れを自由自在に操作する事が出来るかと思えば、また候補者は国民の明確に反することなく議会政治の運営に活潑で言うかぶれ自覚意識を必要がある。この様に同書巨に密接なる関係を結べば選挙の現ごとに公明選挙を口にしなくても自ら公明な選挙としてわが国、民主政治の基礎を築き上げることができるとの事である。

今回の総選挙は減反候補者からみても決して公明であったとはみられないが、再び四月に地方選挙なるものが行われることになる。まして地方選挙は情実やボスと結びつきやすく、さらに地方制度の金銭

第七講 国際社会と友愛運動

ヨーロッパ統合と友愛運動

はどのような関係にあるか

中央教育指導部

前号においては『友愛社会』の構造と言う問題をとり上げ、友愛社会は、その理想的な形においては、人間が中心となる『同心円』として運解することができることを説明いたしました。友愛における人間の関係は、この考え方の発点を説明するものとして、極めて重要であり、人間をとりまく社会の構造は、人間を中心として考察することを説明しました。友愛における人間の関係は、この考え方の発点を説明するものとして、極めて重要であり、人間をとりまく社会の構造は、人間を中心として考察することを中心に話しました。そして、友愛社会においては国家も一つの人間をとりまく円となり、人類とか世の区別は、この社会構造から考える限り、世界的な人間関係を阻害するものとはならないことを説明いたしました。

しかしながら、これらの友愛社会の構造の問題は、あくまで理想の形であり、友愛社会が現実にはどのようなものとなるかと言う課題に対する一つの解答に過ぎないものであることを充分理解していただかなくてはなりません。今日なお人種の差別は、世界の各国において見られるところであり、国家社会を、人間をとりまく一つの現実として考えることを説明いたしました。友愛における人間の関係は、この考え方の発点を説明するものとして、極めて重要であり、人間を中心として考察することを中心に話しました。友愛における人間の関係は、この考え方の発点を説明するものとして、極めて重要であり、人間をとりまく社会の構造は、人間を中心として考察することを中心に話しました。そして、友愛社会においては国家も一つの人間をとりまく円となり、人類とか世の区別は、この社会構造から考える限り、世界的な人間関係を阻害するものとはならないことを説明いたしました。

しかしながら、これらの友愛社会の構造の問題は、あくまで理想の形であり、友愛社会が現実にはどのようなものとなるかと言う課題に対する一つの解答に過ぎないものであることを充分理解していただかなくてはなりません。今日なお人種の差別は、世界の各国において見られるところであり、国家社会を、人間をとりまく一つの現実として考えることを説明いたし

着實な歩み示す

各地に見る支部結成氣運

第二回全国大会の召集状も近く発送されることになり、本部では全国各地においても、本部で近々の準備に汀殺されているが、これに呼応して全国各地においても、本部で近々の準備に汀気運が高まり着実にその一歩一歩を踏み固めている。ここに北海道地区（九州・関東地区）に於ける各地の動きを大観してみる。これは編集締切日まで本部に到着していた報告書にもとずくものである。

（渡辺書記）

◇北海道

札幌　北海道は地域も広く運動の展開が遅れ在まで殆ど青川昭市幹事居住の余市地方に限られていた感があったが、同幹事の積極的な活動により札幌市にも強力な拠点を得ることができた。即ち北海道時際農事会社高年齢部門戸

写真は北海道余市支部員

（渡辺書記）らである。本部では この青川報告に基き、既に同地区にある南田統一君らのグループと連絡をとるよう指示することになっているので、大会前に同地区に支部結成が行われることは確実になった。なお北海道全域に対する地方工業は全国大会以後に行われることが先きに吉川幹事上京の折り同幹事と本部との間で了解されている。

余市　余市地区は吉川幹事の地元であるだけにかねてから活発な運動が展開されており、特に去る一月下旬より各業識者会の発会、同幹事が東京に常任本部との接触を密にして二月上旬に帰道したために、従前に増される活動が再開されている。

◇栃木県

準備進む二県連

栃木県ではかねて宇都宮市の菊地良吉君（国鉄選出幹事）らが中心となって昨秋来資料を活動を行っていたが、本年に入り栃木県支部連合結成準備会が発足をみ、瑞穂宇都宮、足利、佐野、日光、鹿沼、大田原、那須の各市および那須、塩谷、下都賀、河内の各郡に計一二支部が今支部結成の準備を進めており、四月中旬までにこれら支部結成と同時に県連結成への準備に邁進している。

支連結成準備会では宇都宮市宮園町一二四九松永洋一郎主方に去われ百数名公明選挙と投票日迄でのことを協議し、その後これと重大な意義があるとも全知なられば広なる。

◇プロレスはりの子供の頃から大活躍をしたあげく死にした事件があった。そこで世の識者特に輸入評論家の間ではプロレス廃止論迄飛出すわ。これなども現象しかとらえないで物語る当分ジャーナリズムの悪い面が正面に出過ぎたものである。プロレスの同様持つのではないが、どうした本末てん倒の批判はやめにしてもらいたい。（雑識居士）

◇宮都宇

三十日宇都宮市木材会館において同地区の会員六十八名参集、名古多数参列のもとに宇都宮支部結成大会を挙行、目下本部に対し正式手続を申請中である。

当日は役支部規約、当面の同支部運動方針及び役員等を決定したなお現在は同支部会員数は百二十三名。同支部の活動方針次の如し。

一、県支連結成にすべての努力を集中する。会員一千名獲得を目標に領域的な大衆運動を行う。

一、宇都宮市が新天都市であることを自覚し今後結成されるであろうところの県下各支部の範となるよう努力する。以上

なお同支部役員次の如し。

支部長菊地良吉、副支部長梅山敏二、庶務係、事務局長渡辺忠平、会計佐藤良雄、会計監査栗原與男、山元明以下略。

むしばまれるか……教育の民主化

解説

▼戦後の教育民主化のための幾しい制度として、いつでも逆コースの波に動かされている。

▼過去の国定制度に逆転させるというようなはげしい意見はまだあらわれていないが、日本のように小さい国においては、国定論は幾多の理由のあるとは安易の理由である。選挙を闘い終ったあと、「国定は行きたくない」と述べているが、また「相当大切なものとはなろう」もいっているので中教審での論議が注目されている。中教審は文部の諮問機関として昨年一月発足をみて以来文相がこれに諮問の提起をするとはじめてであるが、これについて機高諮問機関という意味は、全くないと非難している者もいる。

▼文部省の人的布陣を見ると、安藤官房の専断的な同様に学校図書審議会委員を任じ、中教審主管局の調査局長に腹心の吉田孝一氏を、教科書調査官に初等中等教育官等務当局にかつて教学局時代に近藤局長に仕えた小沼洋夫氏を社会学官としておいている。小沼氏は、保柳福学官の去ったあと沼氏は、保柳福学官の去ったあとすでにその実権を握っており、更に近藤、吉田、小沼の三氏共学校図書関係者であるので、これら人的布陣から見ても教育国定に行かなくても、教科書編集において文部省版学習指導要領に盲拠するとの強い意向が存在するとの別議を教えようというのではなく大理というのである。

▼最も日本で憂慮されることは、国定と同時に内容の民主化がくずれ、すべての中央集権と同調することである。つまり、教科書を国定化することによって内容まで文部官僚の専断的な同様に学校図書審議会委員を任じ、中教審主管局の調査局長に腹心の吉田孝一氏を、教科書調査官に初等中等教育官等務当局にかつて教学局時代に近藤局長に仕えた小沼洋夫氏を社会学官としておいている。小沼氏は、保柳福学官の去ったあと沼氏は、保柳福学官の去ったあとすでにその実権を握っており、更に近藤、吉田、小沼の三氏共学校図書関係者であるので、これら人的布陣から見ても教育国定に行かなくても、教科書編集において文部省版学習指導要領に盲拠するとの別議を教えようというのではなく大理というのである。

▼最も日本で憂慮されることは、国定と同時に内容の民主化がくずれ、すべての中央集権と同調することである。つまり、教科書を国定化することによって内容まで文部官僚の専断的な同様に学校図書審議会委員を任じ、中教審主管局の調査局長に腹心の吉田孝一氏を、教科書調査官に初等中等教育官等務当局にかつて教学局時代に近藤局長に仕えた小沼洋夫氏を社会学官としておいている。小沼氏は、保柳福学官の去ったあと沼氏は、保柳福学官の去ったあとすでにその実権を握っており、更に近藤、吉田、小沼の三氏共学校図書関係者であるので、これら人的布陣から見ても教育国定に行かなくても、教科書編集において文部省版学習指導要領に盲拠するとの別議を教えようというのではなく大理というのである。

▼「内容の良心性、雇傭、円滑定配給、恒久性」という教科書編成の実現のためにも、教育界は教育の民主化の基本線に立って今後の動きをあくまで厳正な監視を怠ってはならないし、文部省当局も、われわれが安心出来る文教政策を行い、みだりに実験的な政策をもってはならないたくものにのりつぶされてはならないたくないものである。（海人）

◇長野県

懸案の全九州工作

奥田　川手常幹下旬に出発

昨年夏鳩山会長臨席の下に同県では東信地区支部連合会が十七カ町村を傘下に収めて発足した地味ではあるが一歩一歩踏みしめる活動を行ってきているが、今度下高井郡温泉山西長思氏らが中心となり、なお同支部役員次の如し。

支部長菊地良吉、副支部長梅山敏二、庶務係、事務局長渡辺忠平、会計佐藤良雄、会計監査栗原與男、山元明以下略。

◇長野県

昨年夏鳩山会長臨席の下に同県では東信地区支部連合会が十七カ町村を傘下に収めて発足した地味ではあるが一歩一歩踏みしめる活動を行ってきているが、今度下高井郡温泉山西長思氏らが中心となり、なお同支部役員次の如し。

支部長菊地良吉、副支部長梅山敏二、庶務係、事務局長渡辺忠平、会計佐藤良雄、会計監査栗原與男、山元明以下略。

◇関西地区

関西では既に同地区連合会結成準備委が発足し活発な活動を展開しているが、近畿大学内奈良県人会の席上近畿運動についての話があり、藤田君（奈良市北半田中町）らが中心になり奈良市を中心に運動展開が行われることになった。

なお同地区には東敏部信田村支部が既に去る二十九年四月に発足しており、支部結成工作は予想外にはかどるものと本部では期待しているが、同支部に対し本部より北信支連結成に協力するよう指示した。

◇鹿児島県

中野で支部結成準備

九州地方は発足当時幹事を中心とする線で主として北九州の運動展開が行われていたが、先頃同県の勝間源次郎、宮田一男両者が上阪事に来る関西地区に於いても北九州の運動展開が行われることになった。

なお和歌山県に於いても北九州生まれ和歌山出身の運動及び村上君の発足による運動が入会する見込みを本部に対し報告の上、支部結成工作は予想外にはかどるものと本部では期待しているが、同支部に対し本部より北信支連結成に協力するよう指示した。

◇鹿児島県

岡山県下に於ける同地区においても小島郡琴浦町松尾君らが既に支部結成に関し具体的に会合を開いているが、その後同地区の岡山友愛青年同志会と合流する青年団体が本会支部結成に先きがけて発足した。なお岡山友愛青年同志会と本会とは深く関係のないものであるとみられるが、これは第三者に対しても誤解を与えやすいので、健全な歩み方を運動方針としている。このため早急に大会員の獲得する支部結成に期待で きないが学生青年層に友愛運動の普及という大乗的見地に期待するものがあると本部で協力している。

◇鹿児島県

中野で支部結成準備

都内各地に先がけて支部結成準備委員会発足

去る二十六日午後七時より中野区鍋屋横町七同信用金庫会議室において支部結成準備委員会を開催した。

なお第三月中に新宿及び杉並の両区において支部結成準備委が開催されるとのこと、受付は同時に責任者宛の詳細を送付します。申込は、ハガキで住所、年令、経歴等を記して記入のこと。

友愛青年同志会文化部

◇その他

以上本部に支部結成関係の報告を送付したものが拾ったのであるが、既に前号迄に各地の情況は報じられているので、これら報告書は、文相は「人の眼にもないことをあげつらうのは学者の悪癖だ」といい「一道徳についてはこれ以上論議しなければならない。民主道徳でなければならない。個人の尊重相互の人格尊重、そして愛云上る新社会道徳の確立を教えようとしないのではなく大理というのである。

▼「一道徳については、教科書編集において文部省版学習指導要領に盲拠するとの別議を教えようというのである。

▼「内容の良心性、雇傭、円滑定配給、恒久性」という教科書編成の実現のためにも、教育界は教育の民主化の基本線に立って今後の動きをあくまで厳正な監視を怠ってはならないし、文部省当局も、われわれが安心出来る文教政策を行い、みだりに実験的な政策をもってはならないたくものにのりつぶされてはならないたくないものである。（海人）